鹿児島工業高校OB・アトランタオリンピック ボクシング ミドル級代表
自衛隊体育学校 ボクシング班コーチ

本　博国さん

■もと ひろくにプロフィール
1970年3月9日、鹿児島市鴨池町に生まれる、その後三和町に移転。
身長178cm。
自衛隊体育学校 ボクシング班コーチ。階級は、1等海尉。

鹿児島工業高等学校、自衛隊体育学校卒業。
1991年全日本選手権ライトミドル級優勝。1992年〜1995年全日本選手権ミドル級4連覇。1996年アトランタオリンピック ベスト16。大会終了後、現役を引退。
2004年のアテネオリンピック・2008年の北京オリンピックでは監督を務めた。

自衛隊に入るきっかけ

いくつかの大学から声かけてもらったが、一緒に高校総体に出場した鹿屋工業の同期と自衛隊体育大学だと勘違いして入隊。4年したら教員にでもなろうと思っていましたが、大学では無く自衛隊の教育機関、自衛隊でしか通用しないものだった。

自衛隊内での活動

自衛隊体育学校とは、陸・海・空の共同機関で部隊等の体育指導者の育成と、オリンピック等で活躍する選手育成のために創立された機関。私は、後者のオリンピック等で活躍する選手作りの、ボクシング班主任コーチをしています。

震災を目のあたりにして自衛隊内部からどう思ったか？

災害派遣要請により、自分の家族の安否も確認できないまま、派遣された隊員も多数いて、危険を顧みず命がけで救助活動などおこなっている。使命とはいえ、無事に任務遂行され、彼らの活躍が復旧の礎になることを祈ってます。

体育学校のある朝霞駐屯地は、各駐屯地から災害派遣される中継地。私も自衛官として、いても立っても居れず、大した戦力にならないが瓦礫の1本でも拾いにいきたいと、上官に申し出た。

とりあえず、後方支援で今後の要請に備えろとの回答でした。

また、被災地には多くの教え子もいて、安否確静の連絡をした際、体育学校で教わった事を活かして頑張っていると聞くと、何を教えたか覚えてないけど、嬉しく頼もしく思えた。

同志会の皆様へのメッセージ

遠征等で世界各国を見てきて、まず、思う事は日本人として生まれてきて良かった。本当に良かったと思う。

こんな素晴らしい環境を作ってくれた古人に対し感謝するとともに、日本の伝統、文化、領土を継承していく責務があると思います。それを、これから生まれてくる子供達にもいい状態で受け継いで行って貰うために、いろんな立場から協力していきましょう。

一灯照隅（いっとうしょうぐう）
安岡正篤

一つの灯火を掲げて一隅を照らす。そうした誠心誠意の歩みを続けると、いつか必ず共鳴する人が現れてくる。
一灯は二灯になり三灯となり、いつか万灯となって国をほのかに照らすようになる。だからまず、自分から始めなければいけない。
※重田先輩を始めてとする同志会皆様の活動がまさしくこれにあてはまると思っています。

東日本大震災により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

武蔵丸親方 炊き出しに参加

4月9日　福島市のあづま総合体育館にて　4月11日 群馬県の片品村 片品北小学校にて

誠（まごころ）にてチャリティ飲み会を開催しました。

〜 4月8日、満留直行さん、上前琢郎さん、前花利浩さんのお誕生日パーティーを兼ねて 〜

東日本大震災義援金のご報告

同志会まごころ募金に、川村恵三様よりご入金いただきました。
その他、多くの皆様からいただいた寄付金を募金させていただきました。
同志会の皆様ありがとうございました。

新撰組同志会まごころ募金　ゆうちょ銀行　店名：〇一八　店番：018
普通口座：4007343
口座名義：新撰組同志会まごころ募金

L.A新撰組レストラングループより

震災直後からアメリカのニュースも日本のTsunamiや原子力発電のことでひっきりなしです。

私達の本当に身近なところ（各企業・学校・教会などなど）で、人種に関係なく日本のために祈りや募金活動がすぐに始まりました。本当にありがたい事です。

私達、新撰組グループも、今回の被災者の皆さまの救援ならびに被災地の復興にむけて、何ができることはないだろうかと局長、さやかさん及び従業員で話し合った結果、4月30日までにご来店されたお客様の人数を元に独自の計算法で算出した金額を、日本領事館を通して寄付させていただくことにしました。（1万5千ドルから2万ドルくらいになる見込みです）

また新撰組の各店舗でも、それ以外に少しでもと募金箱を設置し、お客様からの善意を募っております。クラージュでは20日（日）から1週間の売り上げの10%を、同じく日本領事館を通して寄付させていただきました。

これから、3ヵ月後、1年後・・・と、長期に渡り支援が必要だと思いますので、微力ながら継続し、日本人としての誇りを持って、私達の思いを届けられたらと思っております。

被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げると共に、犠牲になられた多くの皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

大変だと思いますが、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

新撰組20周年チャリティ夏祭り
来年2012年9月9日開催いたします。
ご参加お待ちしております。

牧尾　誠さんからのお願い

先日、飲酒運転のせいで高校生がお亡くなりになりました。

亡くなった子は、私の知り合いの子どものクラスメイトが中学の時の同級生で、今メールで飲酒運転の撲滅を呼び掛けているそうです。

『みなさんこんにちは。

私たちは多々良中央中学校の第35期生です。私たちは大事な友達を、大人の勝手なわがままで亡くしました。

ほんとに悔しいです。悲しいです。『寛大』の命返せって、言ってやりたいです。でも今、『寛大』の願いは、私たちが元気に笑っていられることだと思います。

できることなら、もう1度『寛大』に会いたい、そんな願いです。電話してもメールしても、『寛大』から返事はありません。『寛大』は私たちの笑顔を見ることが何よりの支えになると思います。

今私たちができることは、『寛大』のために飲酒運転撲滅を呼び掛けること。それくらいです。これで『寛大』の力に、なれるのかは分からないけど、このメールをできるだけたくさんの人に、回していただけたら光栄です。皆さん、是非ご協力よろしくお願いします。

多々良中央35期生、高校1年生。一同。』

夢 Dreams

新撰組同志会は、あなたの夢を応援します！

水本 絵理
（みずもと えり）

花になるより
花を咲かせる土になる

数ヶ月前、私はトランクと大きなボストンバッグを抱えてL.A行きの飛行機に飛び乗った。

海外に滞在するのは始めて・・・勿論特別な友人もいない。今考えると勢いだけでこの街に来た。何かL.Aで成し遂げたい事があった訳でも、東京の生活に不自由を感じていた訳でもなかった。ただ一つ言える事は、毎日ただ仕事に追われる中で何か大切なものを見失っているような空しさが、ここ数年私の心の何処かに存在していた事だった。

私がL・Aの土地で出会った人達・・それはパワフルで目標に向かって生き生きとしている人達の姿だった。

語学の勉強をしながらエステシャンやダンサーを目指す人、既にアメリカンドリームを掴んでその道を突き進んでいる人。私の目には皆が輝かしく映り、そして同時に今まで一人前の顔をして生きてきた自分が無知で未熟であった事を思い知った。

そして何よりわたしの胸に響いたのは、皆がお互い助け合って生きている事・・・。

知らない土地での数ヶ月間、ある程度の孤独感は覚悟していた事だった。それだけにL・Aの人達から注がれる愛と思いやりは、長く閉ざしていた私の心の壁を溶かしていった。特に現地の人とコミュニケーションが取れない私の通訳から車のpick upまで、何から何まで面倒をみてくれていたRちゃん・・彼女は無力の私をいつも自ら助け、愛で支え続けてくれていた。見返りのない優しさを私に与えるだけ与え、「貴女をrespectしているから…」いつもそう私に言ってくれた。

私にそれができるだろうか。
小すぎた自分の人間性を恥ずかしく思い、彼女が眩しく目の前で輝いていた。

3月5日、たった3ヶ月・・されど私にとっては何年にも値した貴重な想い出と共に、ロサンゼルス空港から成田行きの飛行機へと向かった。

帰国してようやく時差も薄れてきた6日目のある日、それは突然やってきた。

忘れもしない3月11日、平和だった日本は歴史上の大惨事となる悲劇に見舞われる。一瞬にして日本人の心を凍りつかせた東日本大震災である。

地震国でもある日本は多少の地震には慣れているところがある。それがかえって私達の本当の意味での危機感を遠ざけてしまっていたのかもしれない。まさに平和ボケ・・地震そのものもさることながら、2次災害がもたらすこれほどまでの恐怖を、いったい誰が予測していただろうか。非難訓練と実際の災害とは別のものである。

もっと早く...できなかったのだろうか、もっと効率的に…。無力な自分を差し置いて、このような自国の対処法に自問自答を繰り返しながらも、私達の隣人との助け合いは始まった。

大惨事の中で悪運強く命拾いした私の目に飛び込んできたのは、佇える人、涙する人、逃げ惑う人々・・だけどもう一つ見過ごしてはならない、手と手を取り合って助け合おうとする人々の姿がそこにはあった。

バラバラになっていた日本人の心が皆一つになって見えた瞬間だった。

水、食糧、電気・・物資があって当たり前と化していた私達が、食べられること、暖かな住まいがあること、そして生きることに心から感謝していた。

先祖の代、貧しい時代の中にあっても心の触れ合いによって心豊かであった話も少なくない。反して私達は物資豊かな中で生まれ育ち、心の豊かさを失いかけてしまっていたのかもしれない。それをどう取り戻せるかは、まさに今後の私達にかかっている。

再び日本が再建する日、私達が本当の意味での平和を手に入れ、そして今がある事を当たり前と思わずに感謝し続けていけるかどうかは最大の課題の一つといえる。

この災害によって私達は忘れかけていたものを思い出しつつある今、「これ以上の犠牲者がどうか増えませんように…」こうした心の声はどこまで響くだろうか。

嘆く被災者の声がTV画面の中から痛々しく流れる中で、一方「今自分にできる事を…」と唱うスポーツ選手や角界代表の強い眼差しが私達の心に微かな光を灯らせる。

悲しんでばかりいられない、残された私達は犠牲を払ってくれた人々の夢を一緒にしょって走りつづけて行かなければならないのだ。

「愛の反対は憎しみではない。無関心である　　byマザー　・テレサ」

今回、住む場所によって明暗が分かれ、例え命拾いしたとて、多くの犠牲が払われた事は今後も自分の事として忘れる事はないだろう。

十数年前・・花になるより花を咲かせる土になる、そう決めて私はヘアメイクの道を進んだ。美しい花を咲かせる為には十分な栄養を与えられる土にならなければならない。技術はあって当たり前、＋αで心に栄養を与えてあげるのが私の役目、そう思ってこの仕事を続けてきた。

だけど最近怠けていたかも・・その気持ち。仕事があって当たり前、、そんな生活に慣れ、夢や目標を持つ事さえ忘れていた。

夢は逃げない、思えば逃げるのはいつも自分だった。

今残された者にできる事は、個々が目の前にある事に向かって突き進み、日本を再建していく事。

私はもうすぐ開幕するミュージカルの仕事を目前に、毎日ウイング作りに奮闘している。暗いニュースが続く中、一時でも夢を見たいと劇場に足を運ぶ人々の心に小さな花が咲くことを願う。

最後に・・・私に多くの事を気づかせて下さったいねさん、L.Aにて見守り続けて下さった重田さん、愛を注いで下さったL.Aの皆さんに心よりお礼を申し上げます。

皆さんの心の中に、沢山の花が咲き続けますように…。

※同志会ニュース12号で、浅野（あさの） 泰輝（たいき）さんの名前を間違えて掲載してしまいました。お詫び申し上げます。

東日本大震災に際して

新極真会

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々には、謹んで深い哀悼の意を表します。

地震発生当時、私は山梨県で日本代表／代表候補合宿に参加したのち、佐賀県で開催されました全九州大会に出席致しました。

震災発生後、メディアを通じて届けられる被災地の様子を目の当たりにするたびに強い心の痛みを覚えます。言葉になりません。今もなお、救助の手を求める方々が多数おいでることと思います。一人でも多くの大切な命が救われることを祈るばかりです。

未曾有の国難に見舞われた今、私たちは新極真会の一員である前に、日本国民の一員としての自覚を新たにしなければなりません。国難の鎮静化に向けて尽力していただいている政府の先生方や、被災地で救助にあたられている方々には心底より敬意と感謝を申し上げます。

この事態に直面した私たちは何をやるべきなのか、そして何が出来るのかをしっかり見極める必要があります。政府から発信される情報を正確に把握し、その指示に従って忠実に行動することが、私たちの行うべきことだと考えています。日本国が一つになることが今求められることだと思います。

今回の災害に際して、世界各国からも続々と支援のお申し出をいただき、救援隊も被災地入りしていただく様子がメディアで配信されています。日本が国際社会の一員である喜びを痛感いたします。新極真会の世界各支部からも私たちの無事を心配して下さるメールや電話を多数お寄せいただきました。皆さまの優しさが心に染みます。本当に有り難うございます。

冒頭に述べました行事を全て終え、全国の支部道場に向けて義援金募集や節電などの通達を発信いたしました。一人の百歩より百人の一歩。今、私たちの小さな行動を積み重ねることが、被災地の復興に向けた必要な努力に他なりません。

最後になりますが、合宿や大会では参加選手が死力を尽くして稽古や試合に挑んでいました。自分たちに出来ることを精一杯行う。被災地復興への祈りを秘めて戦う選手たちの姿を見ながら、いかなる困難や苦難が私たちの前に立ちはだかろうとも、絶対に希望を失ってはいけないと強く自分自身に言い聞かせました。皆さん、今こそ希望を胸に抱いて、力を合わせて強い絆をもって前進していきましょう。

なぜなら、私たちには世界中の仲間がそばにいるのですから。

新極真会代表　緑 健児

新極真会の取組み

空手少年ら募金活動
東日本大震災の被災者支援

3月20日付西日本新聞

少しでも被災者の力に
募金へ「の時」続け呼び掛け
東日本大震災

3月20日付毎日新聞

今年は4年に一度の世界大会の年
10月22、23日 東京体育館に集合!

代表のマンガが出ました！

全国書店で発売中
1,200円（税込）

東京・新橋で奄美産の食材を真心こめ提供

居酒屋・和ごころ「あまみ」経営　叶（かのう） 実統（じっとう）さん（50）　東京都江戸川区

奄美産の食材
真心こめ提供

東京・新橋のビルに居酒屋を構えて、もうじき丸3年。徳之島の高校を卒業した後、赤坂の和食店などで腕を磨き独立した。千葉で12年間営んでいた店の屋号も「奄美」というこだわりだ。「都内で一度は勝負したかった。奄美や鹿児島の出身者は兄弟みたいな存在。真心を込めて作った料理を味わってもらえたら」

メニューには奄美産アオサの天ぷら、ソーメンチャンプル、さつま揚げなどが並ぶ。自慢の品は、秘伝のたれで8時間煮込んだ「黒豚大根」だ。昼食時はサラリーマン向けに、約10種類のおかずを好きなだけ選べる松花堂弁当を500円で提供。「生活応援ランチ」で、胃袋と財布を温める。

伊仙町出身。旧伊仙村議や村長、県議会議員を務めた祖父の名前をもらった。今春、祖父の顕彰除幕式が地元である。店は麦焼酎「島の文化を生び残して」が少なくなった気がする。

徳之島は、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設問題で揺れ続ける。奄美豪雨災害や赤土の流出も気がかりだ。「帰省すると、島口（方言）を使う子ども」が少なくなった気がする。

2月20日付の南日本新聞に叶実統さんの記事が掲載されました。